平成 23 年度　事務事業事後評価調書（平成　22　年度事業）

整理番号	9 － 60

1　事務事業の表示

※ ■ ： 該当

事務事業名	観光協会運営助成事業					
評価者	担当課名		産業振興課	担当係名		商工観光係
	管理職	職名	課長	作成者	職名	係長
		氏名	石井弘道		氏名	齋藤康志
事業の概要	雄武町観光協会への運営補助を行うものである。観光協会の主な事業としては、雄武の宝うまいもんまつりの開催、産業観光まつりの協賛、ホームページ開設、毛ガニプレゼント事業、フォトコンテスト、観光ハンドブック作製などである。					

全体計画	/単年度繰返
（平成 20 年度～ 24 年度）	
事業費 国・道支出金	千円
地方債	千円
その他	千円
一般財源	10,100 千円
事業費計	10,100 千円

実施方法	■ 直営	民間委託	その他（　）		
第 5 期 総合計画（前期）	■ 登載事業	非登載事業	優先度	A	
事業の位置付け	政策目標	1	はつらつ・雄武～地域産業の振興～		
	基本施策	5	観光の振興		
	単位施策	1	雄武観光の売り込み		
	事務事業の種類	■ 自治事務	法定受託事務		
	その他計画・根拠等				

事業費	実施年度	20年度（実績）	21年度（実績）	22年度(実績)	23年度(見込)	24年度(計画)
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円
	雄武町負担額（一般財源）	2,100 千円	2,100 千円	2,300 千円	2,000 千円	2,000 千円
	合計	2,100 千円	2,100 千円	2,300 千円	2,000 千円	2,000 千円

2　事務事業の目的・内容（Plan・Do）

【誰、何が（対象）】	雄武町観光協会	望ましい指標（目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標）		
【抱える課題やニーズは】	実働人員の不足及び自主財源不足	観光入込み数		
		指標（指標計算式／解説）	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか（意図）】	滞在型観光の促進	① 補助団体数	目標年度	22年度
			目標値	1 団体
			実績値	1 団体
			達成度	100.0 %
【その結果、どのような成果を実現したいか】※成果＝目的	観光客の増加により、地元経済が活発化する。	② 入込観客数 産業まつり うまいもん祭り	目標年度	22年度
			目標値	34000 人
			実績値	33800 人
			達成度	99.411765 %

内容（どのような手段で何を行ったか）	
補助金の支出	観光協会に対する補助金の交付

3　事務事業の評価（Check）

（1）事務事業の必要性（町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性）

必要 必要／概ね必要／課題あり	□義務的なもの □全部 □一部	既存の事業展開に含め、今後は他地域に出向いての特産物の積極的な販売PRの実施、観光ガイド等地域リーダーの育成も必要であり、継続実施することが必要と考える。

(2)事務事業の有効性（期待する効果が得られたか）

有効 有効／概ね有効／課題あり	設定した目標値の達成状況 ■達成 □ほぼ達成 □下回る	ホームページの開設により雄武町の情報を手軽に入手できる環境を整備、雄武の宝うまいもんまつりの開催や毛がにプレゼントの実施により雄武町のPRができたものと判断する。

(3)事務事業の効率性（コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか）

効率的 効率的／概ね効率的／課題あり	判断の理由 ■事業費抑制 □人員削減 □時間短縮・作業軽減 □その他	事業内容の見直し等を適宜行っており、運営は効率的と判断する。

(4)事務事業の公平性

公平 公平／概ね公平／公平でない	判断の理由 □受益者負担がある □受益者負担がない □受益が一部に偏る ■その他	特定の任意団体に対する補助だが、町が積極的に行うべき役割も担っていることから、公平性は確保されていると判断をする。

4　総合評価【A～D】

A：計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当　等
B：ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要　等
C：当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要　等
D：事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要　等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A		
町とは異なる立場から観光PRに取り組んでいる団体であり、町が積極的に行うべき役割も担っていることから、継続的な支援が必要である。		

今後の展開方向
(Action)

継続／現状維持		
既存事業に加え、雄武の食のPR事業の展開、特産品の販売PR強化、観光ガイド等地域リーダーの育成等のため、継続支援が必要と判断する。		

＊展開方向の区分
○ 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更　○ 終了　○ 休止　○ 廃止

5　その他特記事項（アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入）